

「アメリカ世」を知る

論説委員 松岡 健

日々小論

夜の路上で酒を飲んでいた米兵らしき男が、いきなり外国人の女に平手打ちを浴びた。酔った男は笑ったままで、男女のグループは大声で騒ぎ続けた。数年前に訪れた沖縄県沖縄市のコザ・ゲート通りで見た光景だ。かつてほどのにぎわいはなくなったとされるが、今も米軍人相手の店が軒を連ねる。米空軍嘉手納基地の「門前町」であることに変わりはない。

1945年3月、米軍は沖縄に上陸。敗戦後の52年に日本は主権を回復したが、沖縄は米国の施政権下に置かれ続けた。**A**年の本土復帰までの期間を地元では「アメリカ世」と呼ぶ。

この時代のコザの街を舞台にした映画「宝島」が公開されている。原作は真藤順丈さんの直木賞受賞作で、主演は妻夫木聡さん。嘉手納基地から物資を盗む若者たちが登場する。

映画では沖縄の歴史的な出来

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄Aに入る数字を書きましょう。

2 傍線部①のようになったのはなぜですか。その理由を解答欄に合わせて、本文中から23字で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

			～			
--	--	--	---	--	--	--

から。

3 傍線部②の意味を次の㊦～㊨から1つ選んで、記号で書きましょう。

- ㊦不平等なこと ㊧道理に合わず、納得できないこと
㊨傲慢な態度 ㊩反省しないようす

4 空欄Bの協定名を漢字で書きましょう。

事もリアルに描かれる。石川市（現うるま市）の宮森小学校に米軍戦闘機が墜落し、児童ら18人が死亡した事故（59年）や、米軍に反発した数千人の市民が関係車両を次々に燃やした「コザ騒動」（70年）などだ。**①**コザ騒動の少し前、飲酒運転の米兵が糸満町（現糸満市）で女性をはねて死亡させながら、無罪となった。米兵絡みの事件や事故が続発していたのに、当時の琉球警察は米軍人への捜査権を持たなかった。騒動の背景にはこうした理不尽への怒りがある。刑事になった映画の主人公も米側に捜査を阻まれる。これは過去の話だろうか。本土復帰後、沖縄には**B**が適用された。米軍の特権的地位が認められ、今も日本側の捜査は制約される。協定は日本全体に関わる問題だ。本土の私たちこそ、アメリカ世の実像をもっと知る必要があると思う。

NIEワークシートのこたえ（2025年10月6日公開）

◆ワークシート「沖縄の米軍(社会)」
2025.10.2付 朝刊 10面 解答

1 72 (1972)

2 当時の～かった から。

3 ①

4 日米地位協定